

### 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

#### 第2項 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにします

めざしたい将来像：

生涯を通じて学んだり、スポーツをする楽しさを味わい続けられるように、自主的に参加しやすい場所や機会を増やすことで、年齢に関わらず心身ともにいきいきと暮らせるまちを実現します。

《指標》

学習活動を行っている市民の割合

#### (1) 指標の説明

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、学習活動を行っている市民の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いています。「個人・行動」

Q7 あなたは日頃、特定の関心があるテーマについて、自主的に学習活動をしていることがありますか。過去1年間で振り返って、学習活動に取り組んだ日数は平均するとどのくらいですか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |          |          |        |
|----------|----------|--------|
| 1 ほぼ毎日   | 3 月に数日ほど | 5 全くない |
| 2 週に数日ほど | 4 年に数日ほど |        |

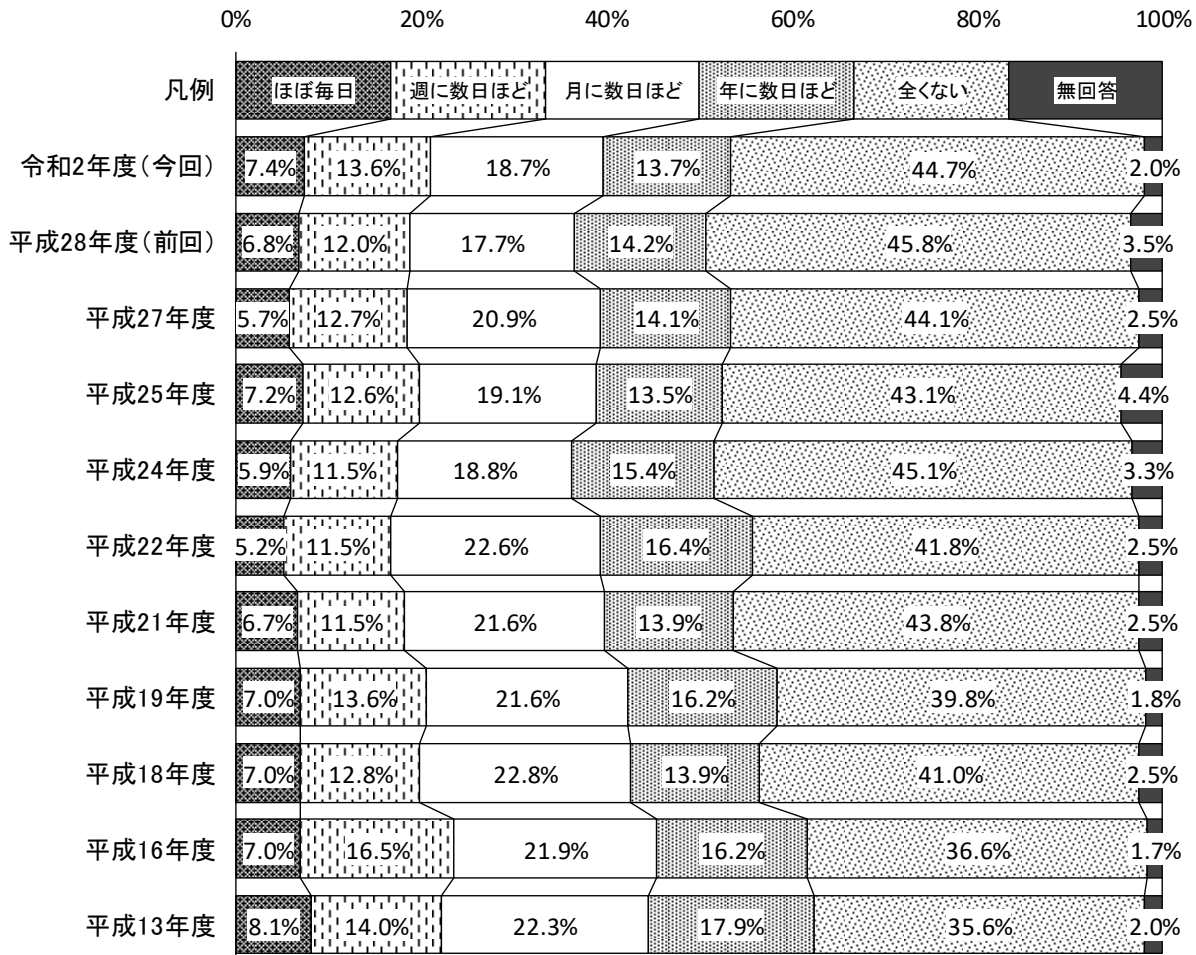
#### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
ほぼ毎日	8.1%	7.0%	7.0%	7.0%	6.7%	5.2%	5.9%	7.2%	5.7%	6.8%	7.4%
週に数日ほど	14.0%	16.5%	12.8%	13.6%	11.5%	11.5%	11.5%	12.6%	12.7%	12.0%	13.6%
月に数日ほど	22.3%	21.9%	22.8%	21.6%	21.6%	22.6%	18.8%	19.1%	20.9%	17.7%	18.7%
計	44.4%	45.4%	42.6%	42.2%	39.8%	39.3%	36.2%	39.0%	39.3%	36.5%	39.7%

#### (4) 指標の分析

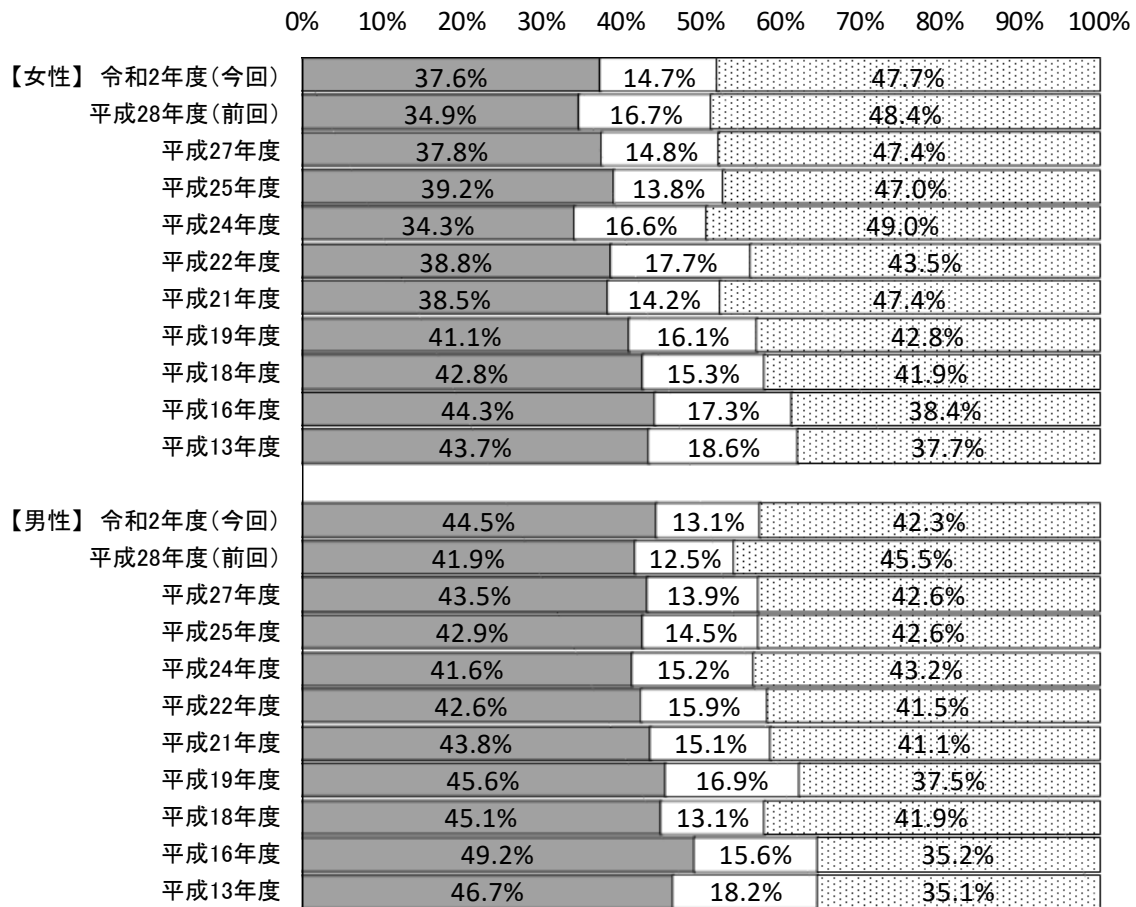
##### ☆定期的に学習活動を行っている人は約4割となっています

学習活動について、「ほぼ毎日」、「週に数日ほど」、「月に数日ほど」を合わせた『定期的に学習活動を行っている』(39.7%)と答えた方は約4割となっており、平成28年度調査と比べて3.2ポイント増加しています。



<学習活動×性別>

性別で見ると、『定期的に学習活動を行っている』は“男性”（44.5%）が“女性”（37.6%）より高くなっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。



- 「ほぼ毎日」と「週に数日ほど」と「月に数日ほど」の合計比率
- 「年に数日ほど」の比率
- ▣「全くない」の比率

<学習活動×年齢別>

年齢別でみると、『定期的に学習活動を行っている』は“20～29歳”（56.9%）で最も高く、次いで“30～39歳”と“60～69歳”（ともに44.4%）となっています。また、“70歳以上”を除く全ての年代で『定期的に学習活動を行っている』は平成28年度調査と比べて増加しています。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

年齢	年度	「ほぼ毎日」と「週に数日ほど」と「月に数日ほど」の合計比率	「年に数日ほど」の比率	「全くない」の比率
【20～29歳】	令和2年度(今回)	56.9%	21.2%	21.9%
	平成28年度(前回)	54.6%	10.0%	35.4%
	平成27年度	52.1%	10.1%	37.8%
	平成25年度	46.1%	12.5%	41.4%
	平成24年度	40.6%	21.7%	37.7%
	平成22年度	48.1%	17.1%	34.9%
	平成21年度	50.6%	16.7%	32.7%
	平成19年度	58.6%	14.3%	27.1%
	平成18年度	58.4%	9.9%	31.7%
	平成16年度	56.1%	16.5%	27.3%
平成13年度	49.3%	17.3%	33.3%	
【30～39歳】	令和2年度(今回)	44.4%	14.6%	41.0%
	平成28年度(前回)	32.8%	18.6%	48.6%
	平成27年度	38.1%	18.3%	43.6%
	平成25年度	40.9%	17.0%	42.2%
	平成24年度	35.3%	14.5%	50.2%
	平成22年度	36.0%	23.2%	40.8%
	平成21年度	42.5%	18.8%	38.7%
	平成19年度	41.5%	19.4%	39.1%
	平成18年度	40.4%	19.1%	40.4%
	平成16年度	46.0%	19.1%	34.9%
平成13年度	46.8%	21.5%	31.6%	
【40～49歳】	令和2年度(今回)	40.9%	13.9%	45.2%
	平成28年度(前回)	32.2%	16.5%	51.3%
	平成27年度	35.3%	16.9%	47.7%
	平成25年度	35.6%	16.4%	48.0%
	平成24年度	33.1%	18.8%	48.1%
	平成22年度	42.4%	19.4%	38.2%
	平成21年度	41.4%	12.3%	46.3%
	平成19年度	44.6%	21.6%	33.8%
	平成18年度	40.5%	22.3%	37.2%
	平成16年度	51.7%	20.7%	27.6%
平成13年度	45.8%	25.5%	28.7%	
【50～59歳】	令和2年度(今回)	38.8%	18.1%	43.1%
	平成28年度(前回)	38.7%	14.4%	46.8%
	平成27年度	40.7%	17.6%	41.6%
	平成25年度	38.3%	17.8%	43.9%
	平成24年度	37.7%	16.7%	45.6%
	平成22年度	41.2%	17.2%	41.6%
	平成21年度	33.2%	15.6%	51.2%
	平成19年度	36.4%	18.2%	45.5%
	平成18年度	39.2%	15.0%	45.8%
	平成16年度	37.2%	18.8%	43.9%
平成13年度	42.2%	17.6%	40.1%	
【60～69歳】	令和2年度(今回)	44.4%	12.9%	42.7%
	平成28年度(前回)	39.5%	14.3%	46.1%
	平成27年度	36.8%	11.6%	51.6%
	平成25年度	43.7%	12.2%	44.0%
	平成24年度	39.3%	15.1%	45.6%
	平成22年度	41.5%	12.5%	46.0%
	平成21年度	40.8%	14.2%	45.0%
	平成19年度	43.1%	13.8%	43.1%
	平成18年度	46.1%	9.3%	44.6%
	平成16年度	49.2%	11.4%	39.4%
平成13年度	44.6%	13.3%	42.1%	
【70歳以上】	令和2年度(今回)	32.6%	9.6%	57.8%
	平成28年度(前回)	36.3%	14.0%	49.7%
	平成27年度	44.5%	11.8%	43.7%
	平成25年度	40.4%	10.2%	49.4%
	平成24年度	40.4%	11.6%	48.0%
	平成22年度	36.7%	11.7%	51.5%
	平成21年度	40.0%	9.2%	50.8%
	平成19年度	41.0%	11.3%	47.7%
	平成18年度	43.9%	7.8%	48.3%
	平成16年度	42.5%	13.8%	43.8%
平成13年度	40.0%	12.0%	48.0%	

- 「ほぼ毎日」と「週に数日ほど」と「月に数日ほど」の合計比率
- 「年に数日ほど」の比率
- ▨「全くない」の比率

<学習活動×芸術文化の実施状況別>

芸術文化の実施状況別でみると、『定期的に学習活動を行っている』は実施頻度が高くなるにつれて割合が高くなっており、「鑑賞し、自分でも創作や実践もしている」(75.2%)と答えた方で最も高くなっています。一方、「ほとんど鑑賞しない」(18.9%)と答えた方では2割に達していません。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

【鑑賞し、自分でも創作や実践もしている】	令和2年度(今回)	75.2%	5.8%	19.0%
	平成28年度(前回)	74.0%	8.7%	17.3%
	平成27年度	69.4%	11.6%	19.0%
	平成25年度	76.3%	6.4%	17.3%
	平成24年度	60.8%	14.4%	24.8%
	平成22年度	74.1%	13.6%	12.2%
	平成21年度	70.4%	8.1%	21.5%
	平成19年度	75.2%	14.3%	10.5%
	平成18年度	71.4%	9.5%	19.0%
	平成16年度	74.6%	7.9%	17.5%
平成13年度	82.6%	8.7%	8.7%	
【よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない】	令和2年度(今回)	55.9%	15.5%	28.6%
	平成28年度(前回)	48.4%	12.2%	39.4%
	平成27年度	52.1%	12.8%	35.1%
	平成25年度	51.3%	18.6%	30.2%
	平成24年度	51.4%	17.8%	30.9%
	平成22年度	50.6%	13.4%	35.9%
	平成21年度	52.6%	16.0%	31.5%
	平成19年度	55.2%	12.3%	32.5%
	平成18年度	59.0%	14.3%	26.7%
	平成16年度	62.6%	16.1%	21.3%
平成13年度	53.2%	16.7%	30.1%	
【時々鑑賞している】	令和2年度(今回)	45.3%	20.4%	34.2%
	平成28年度(前回)	44.9%	18.3%	36.8%
	平成27年度	51.0%	17.2%	31.8%
	平成25年度	44.4%	16.4%	39.2%
	平成24年度	43.8%	17.6%	38.6%
	平成22年度	45.3%	19.3%	35.4%
	平成21年度	43.3%	19.8%	36.9%
	平成19年度	46.0%	20.9%	33.1%
	平成18年度	47.3%	16.1%	36.6%
	平成16年度	54.6%	17.1%	28.3%
平成13年度	51.1%	21.1%	27.8%	
【たまたま鑑賞している】	令和2年度(今回)	37.0%	13.0%	50.0%
	平成28年度(前回)	34.6%	18.6%	46.8%
	平成27年度	36.1%	18.3%	45.7%
	平成25年度	35.5%	15.3%	49.2%
	平成24年度	33.6%	19.5%	46.9%
	平成22年度	33.0%	20.5%	46.5%
	平成21年度	35.7%	14.3%	50.0%
	平成19年度	38.7%	19.1%	42.2%
	平成18年度	39.1%	16.5%	44.4%
	平成16年度	39.3%	17.4%	43.3%
平成13年度	39.2%	21.5%	39.2%	
【ほとんど鑑賞しない】	令和2年度(今回)	18.9%	11.0%	70.1%
	平成28年度(前回)	20.6%	10.1%	69.3%
	平成27年度	19.0%	9.5%	71.5%
	平成25年度	22.6%	12.9%	64.4%
	平成24年度	18.8%	10.0%	71.2%
	平成22年度	22.6%	13.0%	64.4%
	平成21年度	25.0%	8.5%	66.5%
	平成19年度	24.8%	13.4%	61.8%
	平成18年度	23.9%	12.1%	64.0%
	平成16年度	22.3%	18.9%	58.8%
平成13年度	24.3%	16.7%	59.0%	

■「ほぼ毎日」と「週に数日ほど」と「月に数日ほど」の合計比率

□「年に数日ほど」の比率

▣「全くない」の比率

《指標》

学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合

(1) 指標の説明

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度（認知）」

Q8 あなたがこれまでに、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると思いますか。次の中から、活かされていると思う番号全てに○をつけてください。

- |                           |                |
|---------------------------|----------------|
| 1 仕事、職業に活かされている           | 6 その他（ ）       |
| 2 自分自身の向上に活かされている         | 7 活かされていない     |
| 3 家庭や家族に活かされている           | 8 学習活動をしたことがない |
| 4 地域活動や社会活動に活かされている       |                |
| 5 親睦を深めたり、友人を得るときに活かされている |                |

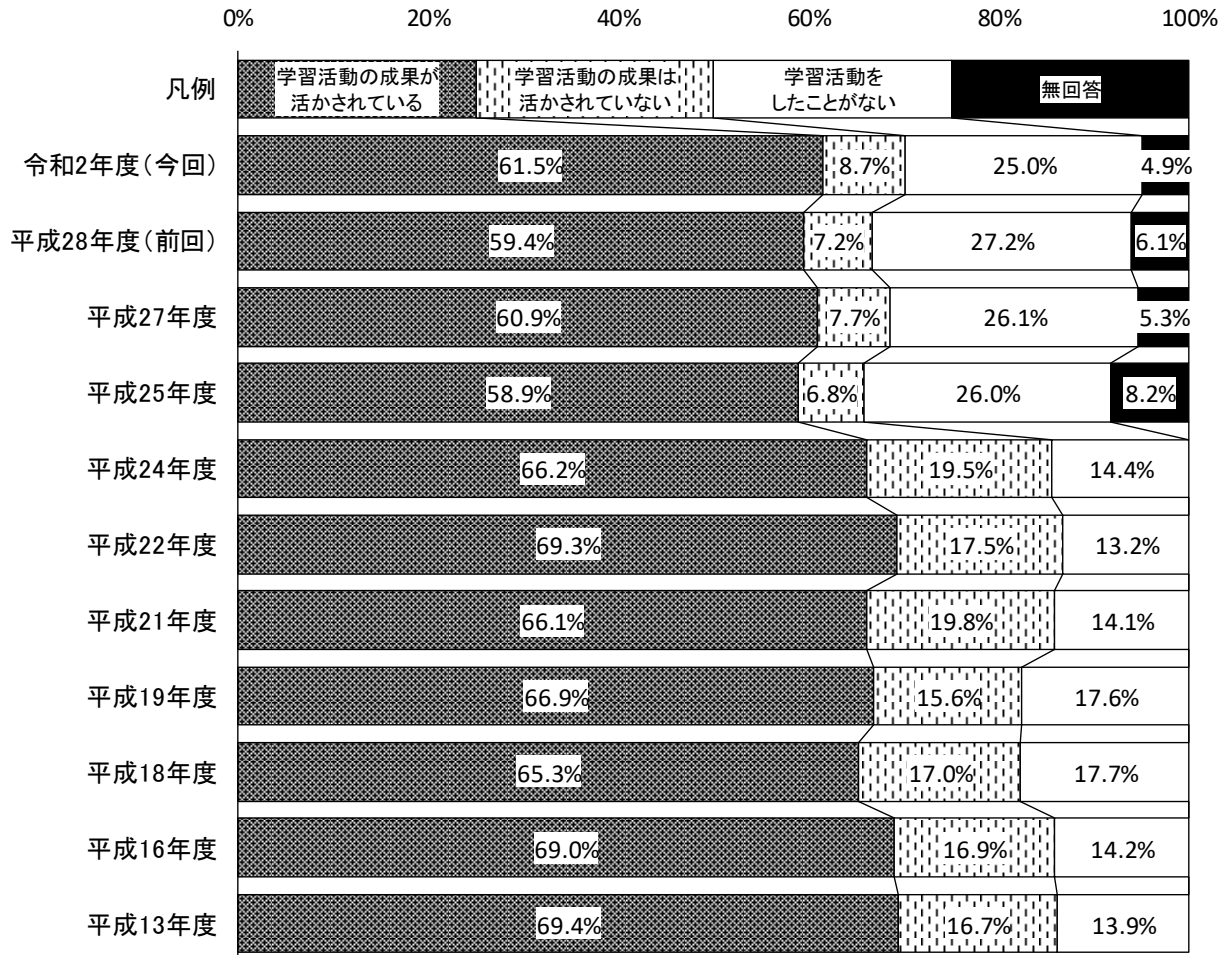
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
学習活動の成果が 活かされている	69.4%	69.0%	65.3%	66.9%	66.1%	69.3%	66.2%	58.9%	60.9%	59.4%	61.5%

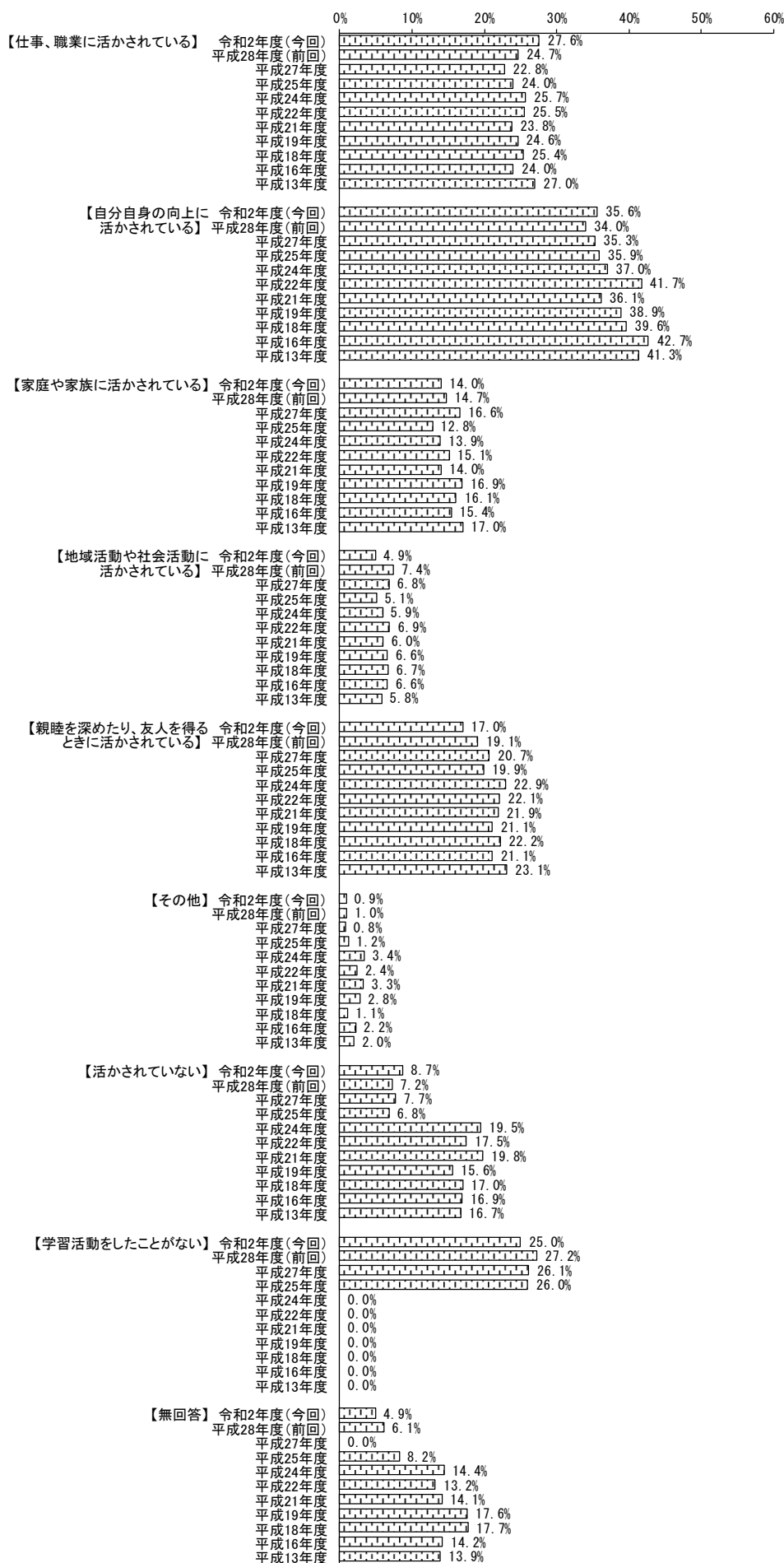
(4) 指標の分析

☆学習活動の成果が活かされていると思う人は約6割となっています

自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされているかについて、「学習活動の成果が活かされている」(61.5%)と答えた方は約6割となっており、平成28年度調査と同様の傾向を示しています。



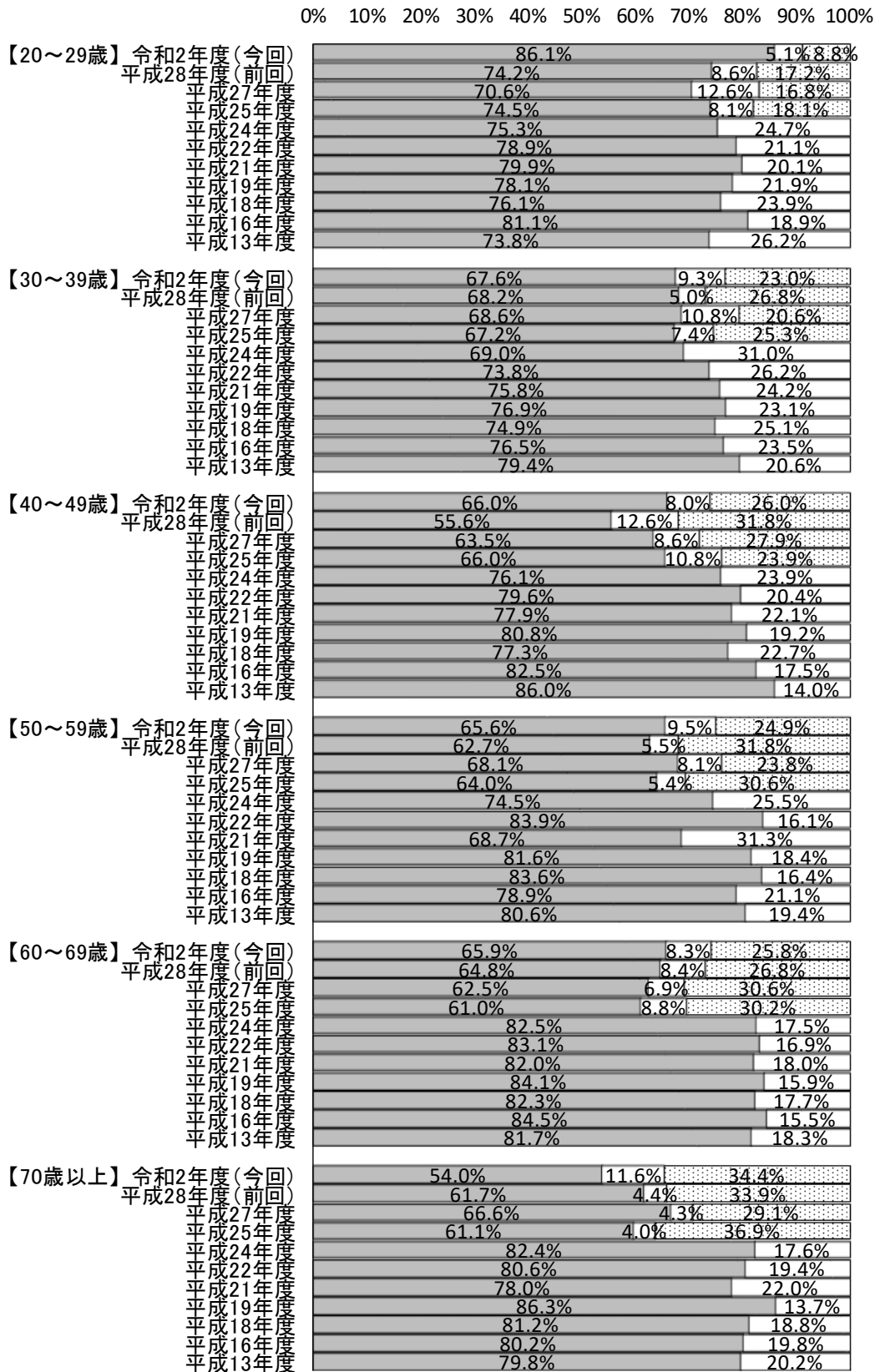
学習活動の成果が活かされていると思う具体的な機会は、「自分自身の向上に活かされている」(35.6%)が最も高く、次いで「仕事、職業に活かされている」(27.6%)となっており、過去の調査と大きな傾向の違いはありません。





<学習活動の成果×年齢別>

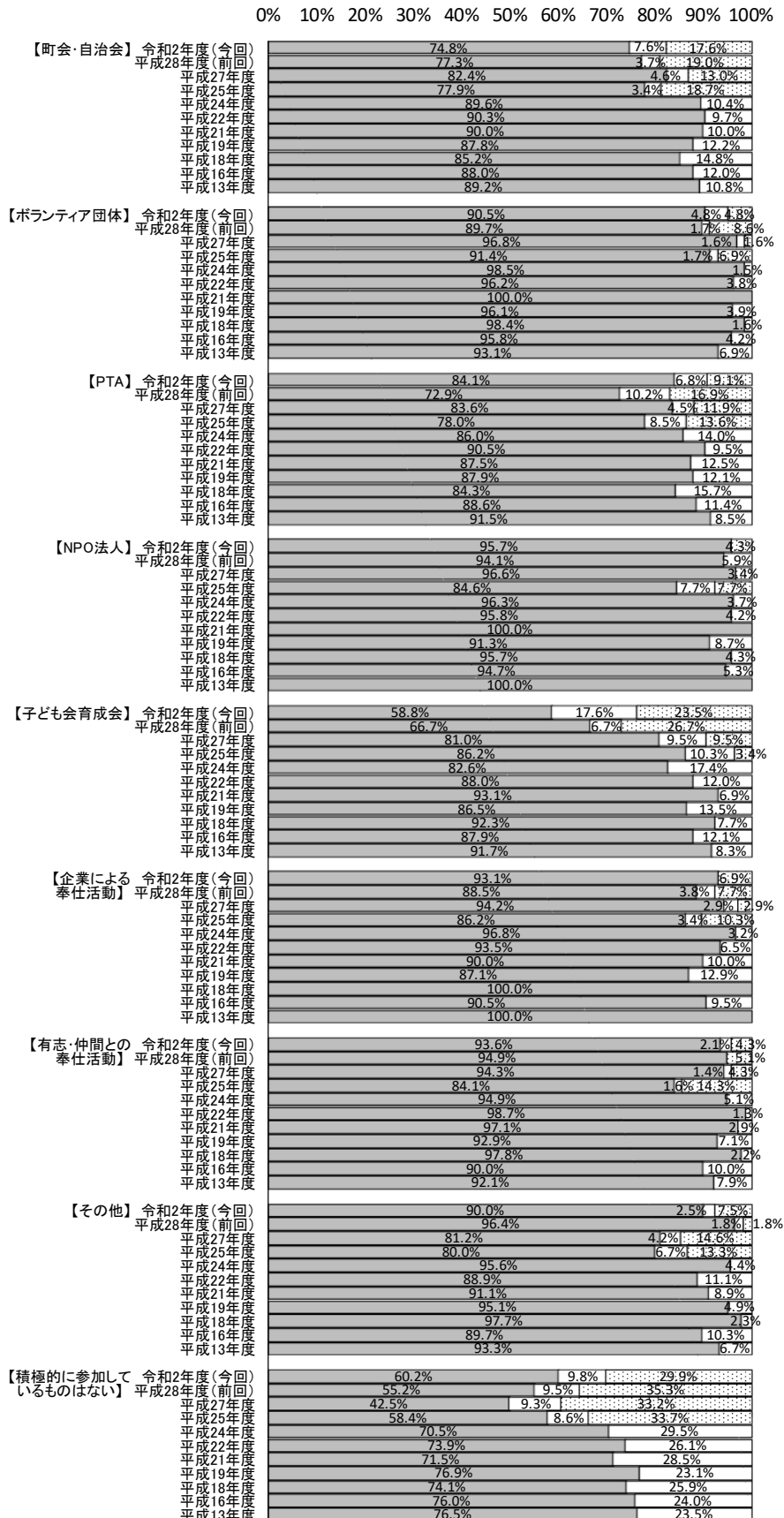
年齢別で見ると、「学習活動の成果が活かされている」は“20～29歳”（86.1%）で最も高く、次いで“30～39歳”（67.6%）となっています。また、「学習活動の成果が活かされている」は平成28年度調査と比べて、“20～29歳”で11.9ポイント、“40～49歳”で10.4ポイント、それぞれ増加しています。



- 「学習活動の成果が活かされている」の比率
- 「学習活動の成果は活かされていない」の比率
- ▨「学習活動をしたことがない」の比率

<学習活動の成果×地域活動への参加別>

地域活動への参加別で見ると、「学習活動の成果が活かされている」は“NPO法人”(95.7%)、“有志・仲間との奉仕活動”(93.6%)、“企業による奉仕活動”(93.1%)、“ボランティア団体”(90.5%)に参加していると答えた方で9割台と高くなっています。



- 「学習活動の成果が活かされている」の比率
- 「学習活動の成果は活かされていない」の比率
- ▨「学習活動をしたことがない」の比率

《指標》

スポーツを行なっている市民の割合

(1) 指標の説明

スポーツをすることで、身体・精神の両面に良好な影響を与え、ストレスの多い現代社会において人生をより豊かにします。そこで、スポーツの振興度合を把握するため、スポーツを行なっている市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q12 あなたは日頃、運動・スポーツをしていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |          |                     |
|----------|---------------------|
| 1 ほぼ毎日   | 3 以前はしていたが、現在はしていない |
| 2 最近、始めた | 4 以前も、現在もしていない      |

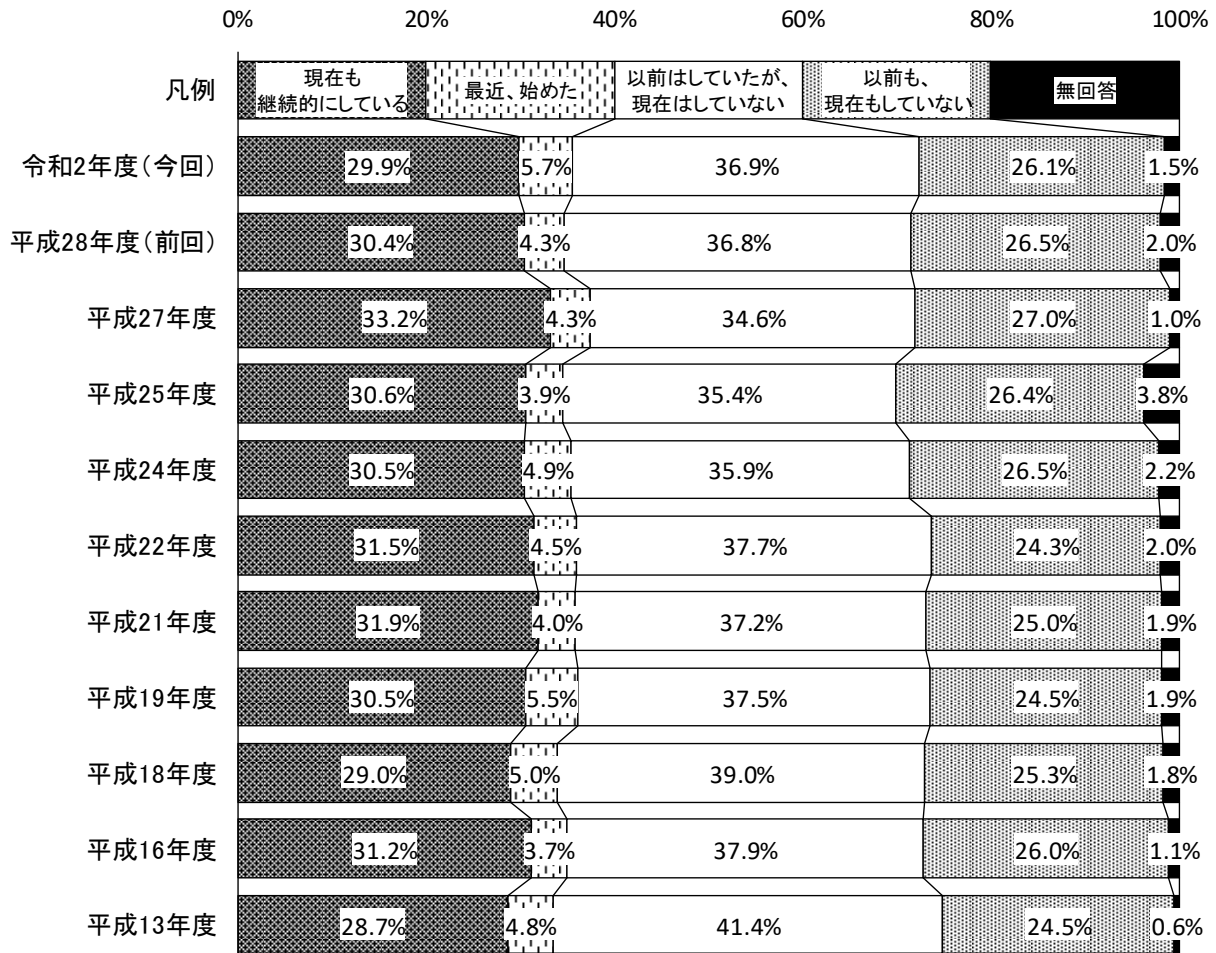
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
現在も継続的に している	28.7%	31.2%	29.0%	30.5%	31.9%	31.5%	30.5%	30.6%	33.2%	30.4%	29.9%
最近、始めた	4.8%	3.7%	5.0%	5.5%	4.0%	4.5%	4.9%	3.9%	4.3%	4.3%	5.7%
計	33.5%	34.9%	34.0%	36.0%	35.9%	36.1%	35.4%	34.4%	37.5%	34.7%	35.6%

#### (4) 指標の分析

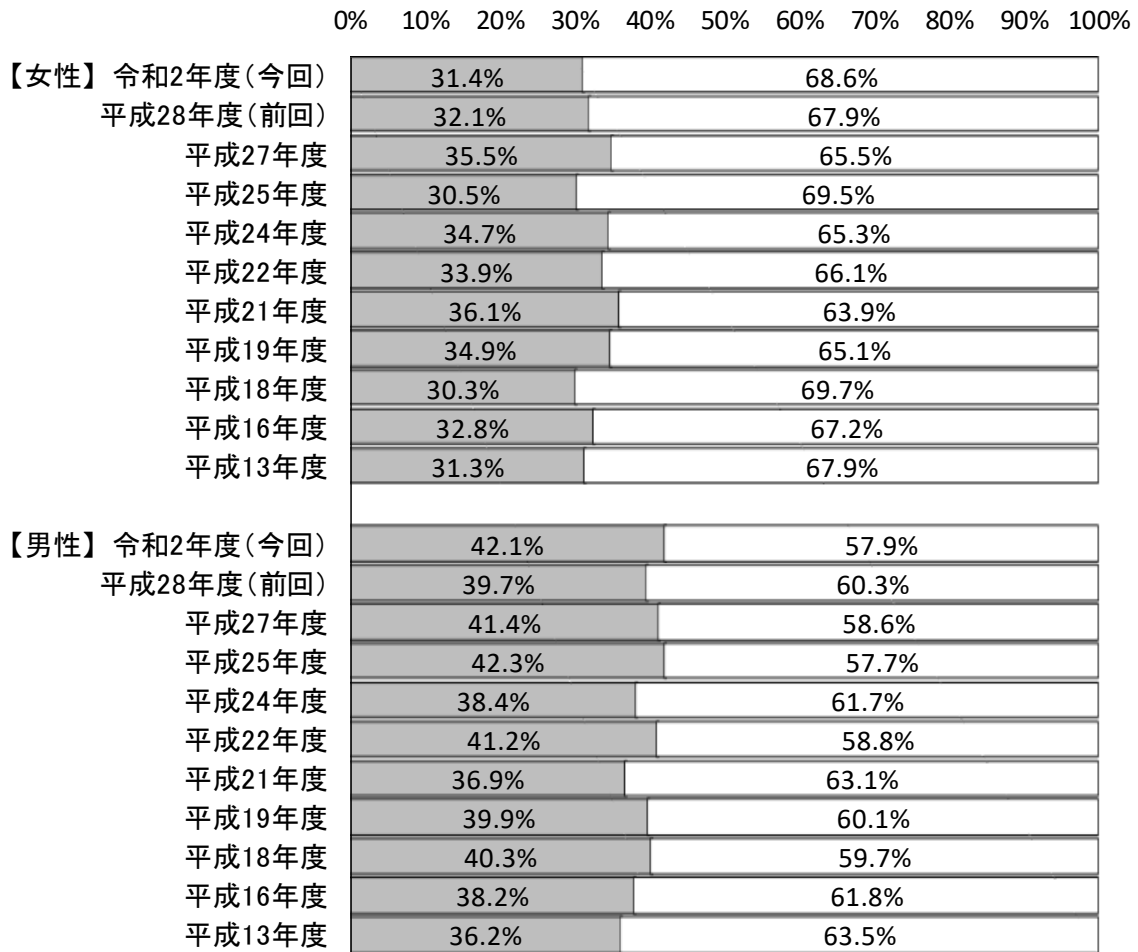
##### ☆日頃、運動・スポーツをしている人は3割半ばとなっています

日頃の運動・スポーツの実施状況について、「現在も継続的にしている」、「最近、始めた」を合わせた『運動・スポーツをしている』(35.6%)と答えた方は3割半ばとなっており、平成28年度調査と同様の傾向を示しています。



<スポーツ活動×性別>

性別でみると、『運動・スポーツをしている』は“男性”（42.1%）が“女性”（31.4%）より高くなっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。

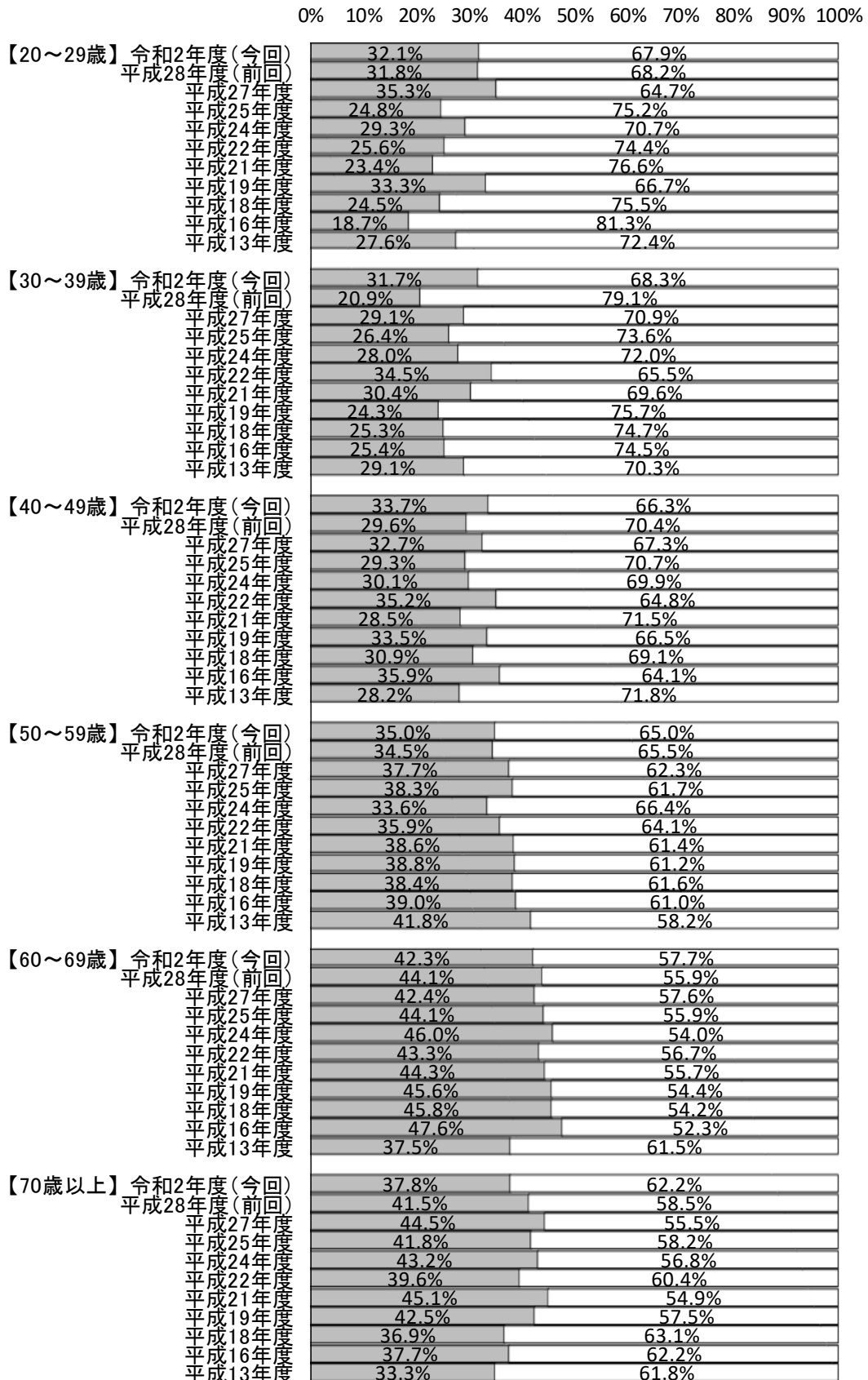


■「現在も継続的にしている」と「最近、始めた」の合計比率

□「以前はしていたが、現在はしていない」と「以前も、現在もしていない」の合計比率

<スポーツ活動×年齢別>

年齢別で見ると、『運動・スポーツをしている』は“60～69歳”（42.3%）で最も高く、次いで“70歳以上”（37.8%）となっています。また、『運動・スポーツをしている』は平成28年度調査と比べて“30～39歳”で10.8ポイント増加しています。

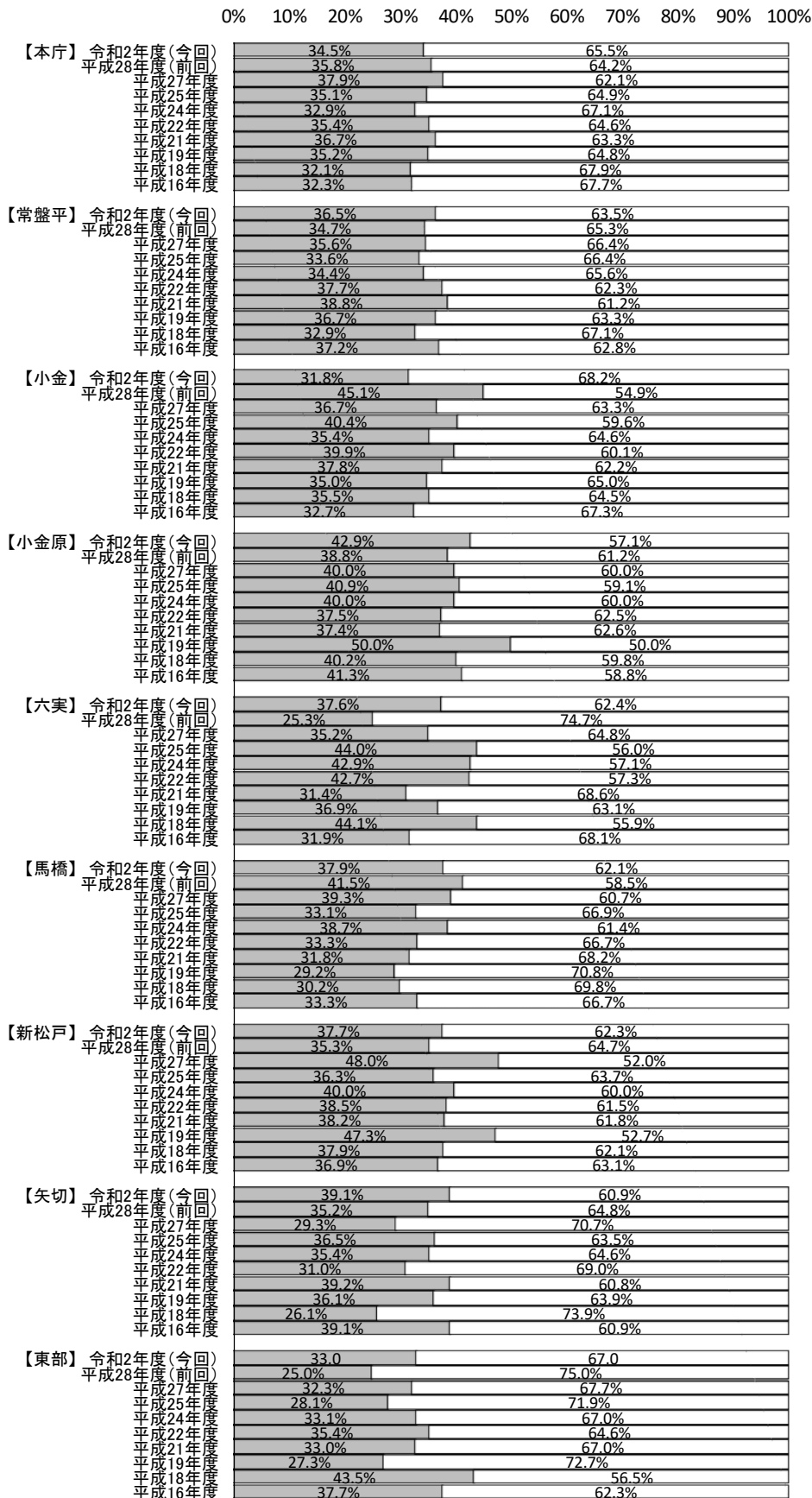


■「現在も継続的にしている」と「最近、始めた」の合計比率

□「以前はしていたが、現在はしていない」と「以前も、現在もしていない」の合計比率

<スポーツ活動×居住地区別>

居住地区別でみると、『運動・スポーツをしている』は“小金原” (42.9%) で最も高く、次いで“矢切” (39.1%) となっています。また、『運動・スポーツをしている』は平成28年度調査と比べて、“六実” で12.3ポイント、“東部” で8.0ポイント、それぞれ増加しています。



■「現在も継続的にしている」と「最近、始めた」の合計比率

□「以前はしていたが、現在はしていない」と「以前も、現在もしていない」の合計比率

### 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

#### 第3項 国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

めざしたい将来像：

平和を大切にし、松戸を愛する人を増やすため、日本人も外国人も皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、誰もが誇りのもてる“ふるさと松戸”を実現します。

《指標》

史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度

#### (1) 指標の説明

松戸の歴史、文化身近に感じ、満足している人の割合を把握するため、史跡や神社、仏閣など歴史など・伝統文化遺産の満足度を指標にします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度（評価）」

Q18（ス） あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～チの各項目に、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目		十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ス	史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産	1	2	3	4	5	6

#### (3) 指標の現状

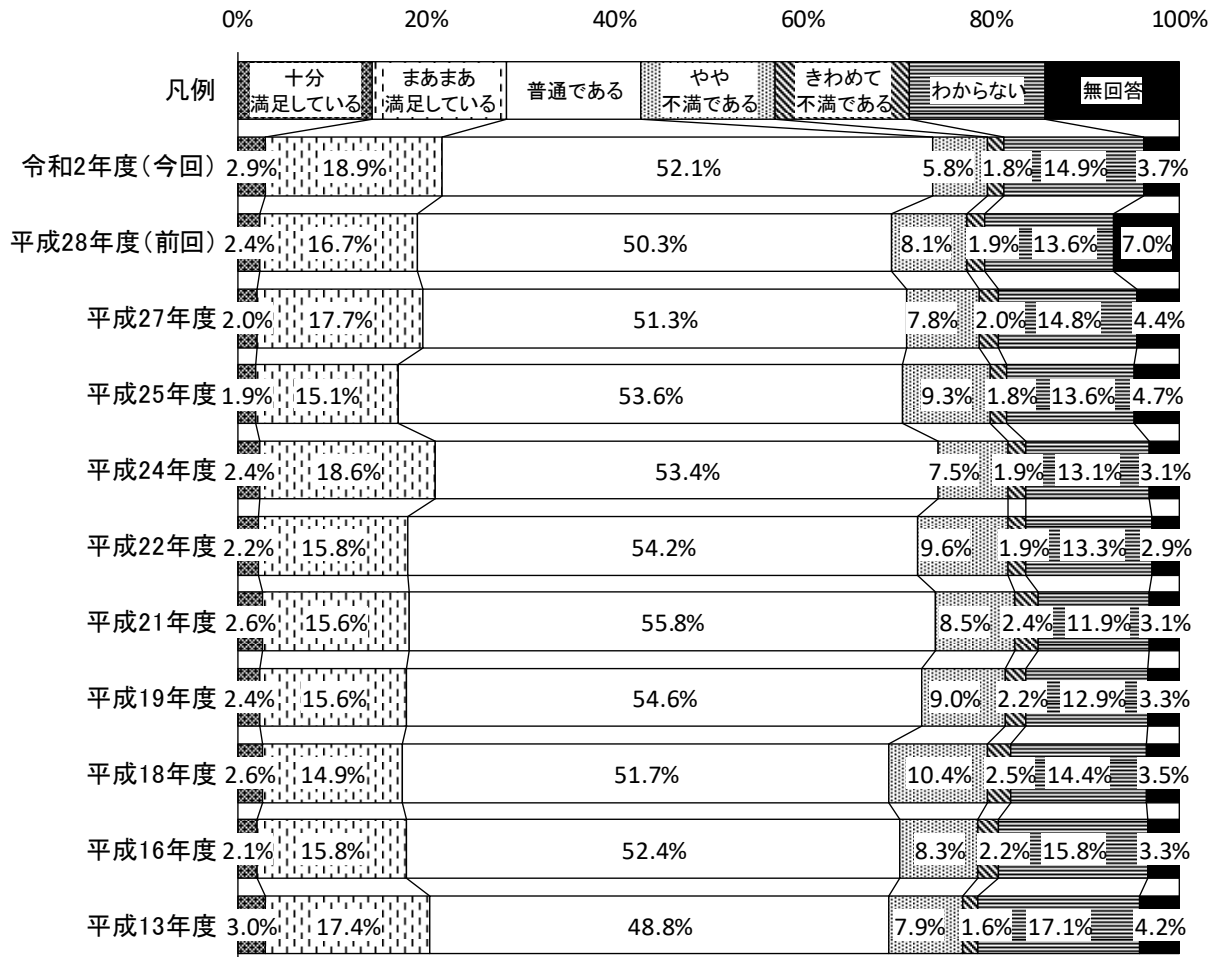
	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成25年度	平成27年度	平成28年度	令和2年度
十分満足している	3.0%	2.1%	2.6%	2.4%	2.6%	2.2%	2.4%	1.9%	2.0%	2.4%	2.9%
まあまあ満足している	17.4%	15.8%	14.9%	15.6%	15.6%	15.8%	18.6%	15.1%	17.7%	16.7%	18.9%
計	20.4%	17.9%	17.5%	18.0%	18.2%	18.0%	21.0%	17.0%	19.7%	19.1%	21.8%



(4) 指標の分析

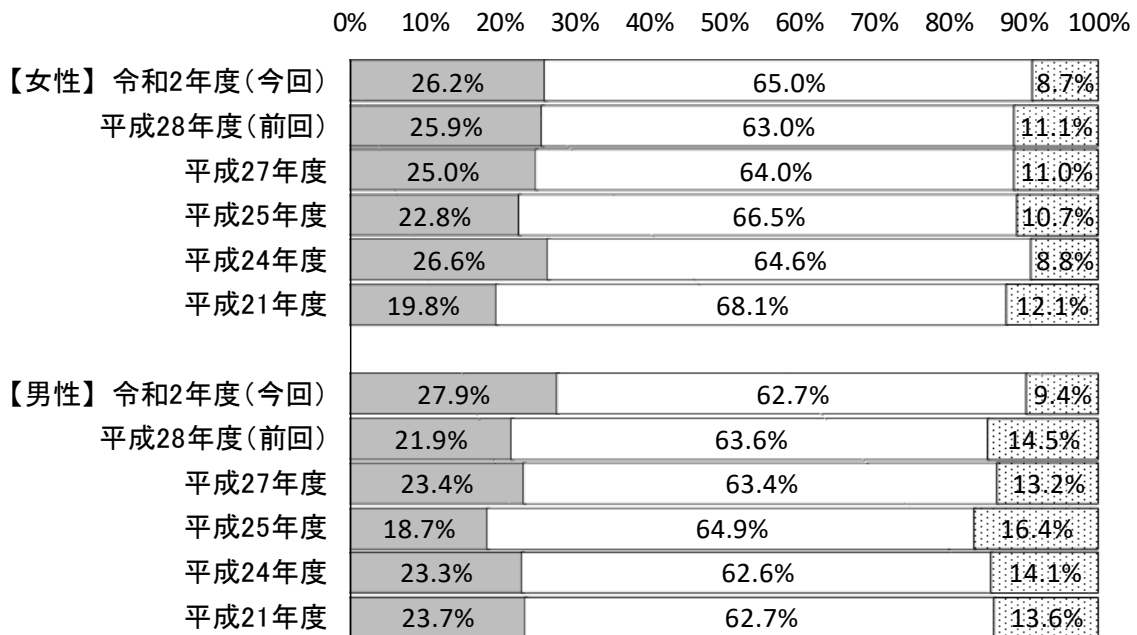
☆史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度は約2割

史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産に、「十分満足している」、「まあまあ満足している」を合わせた『満足している』(21.8%)と答えた方は約2割となっており、平成13年度調査以降最も高い割合となっています。



<史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×性別>

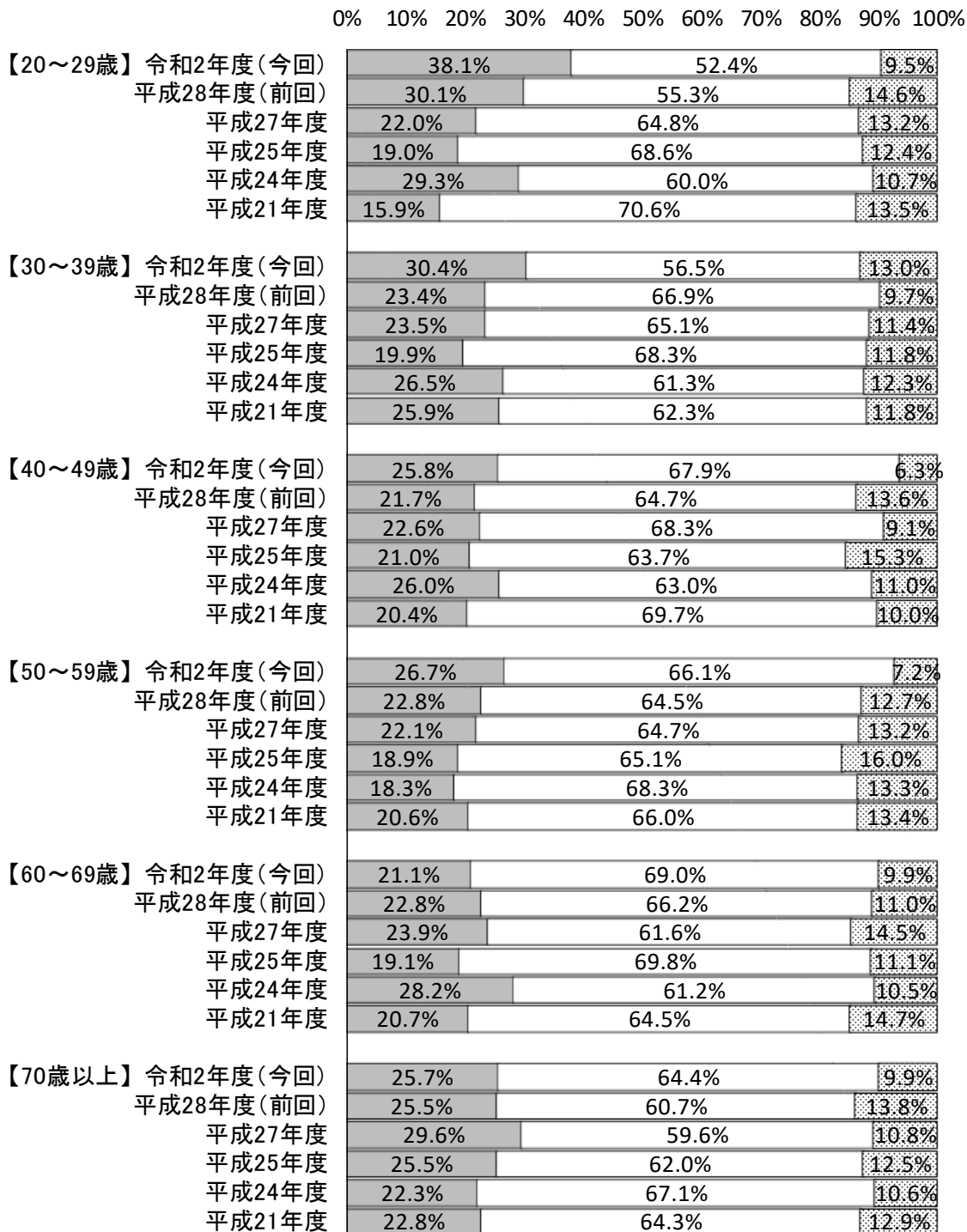
性別で見ると、『満足している』は“男性”（27.9%）が“女性”（26.2%）より高くなっており、平成28年度調査と比べて男性では6.0ポイント増加しています。



- 「十分満足している」と「まあまあ満足している」の合計比率
- 「普通である」の比率
- ▣「やや不満である」と「きわめて不満である」の合計比率

<史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×年齢別>

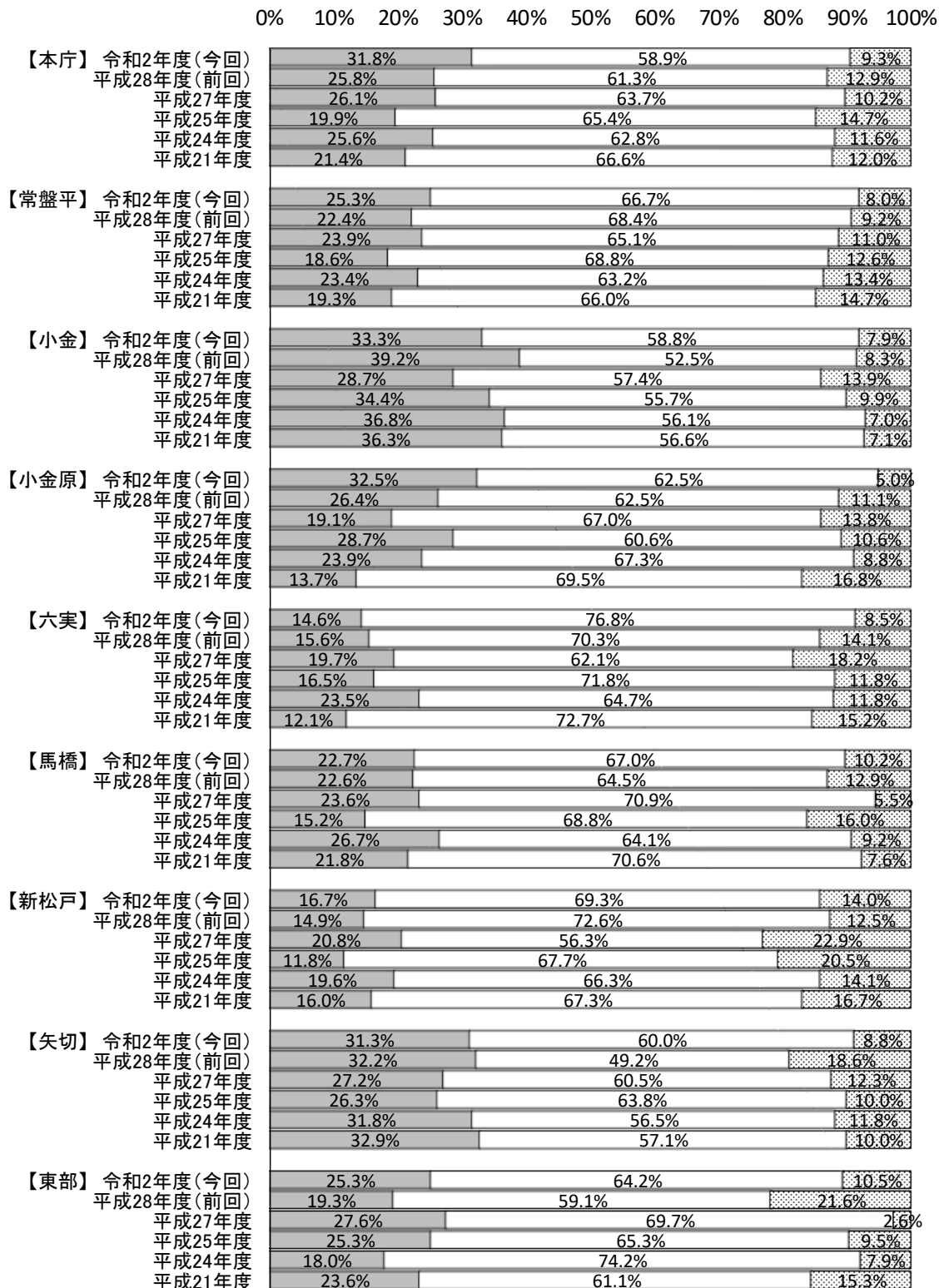
年齢別で見ると、『満足している』は“20～29歳”（38.1%）で最も高く、次いで“30～39歳”（30.4%）、“50～59歳”（26.7%）となっています。また、『満足している』は平成28年度調査と比べて、“20～29歳”で8.0ポイント、“30～39歳”で7.0ポイント、それぞれ増加しています。



- 「十分満足している」と「まあまあ満足している」の合計比率
- 「普通である」の比率
- ▨「やや不満である」と「きわめて不満である」の合計比率

<史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×居住地区別>

居住地区別でみると、『満足している』は“小金” (33.3%) で最も高く、次いで“小金原” (32.5%) となっています。また、『満足している』は平成28年度調査と比べて、“小金原” で6.1ポイント、“本庁” と“東部” でともに6.0ポイント、それぞれ増加しています。



- 「十分満足している」と「まあまあ満足している」の合計比率
- 「普通である」の比率
- ▨「やや不満である」と「きわめて不満である」の合計比率

<史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×定住意向別>

定住意向別でみると、『満足している』は定住意向が強くなるにつれて割合が高くなっており、「住み続けたい」(34.5%)と答えた方で最も高くなっています。



- 「十分満足している」と「まあまあ満足している」の合計比率
- 「普通である」の比率
- ▨「やや不満である」と「きわめて不満である」の合計比率

《指標》

文化・芸術に親しむ市民の割合

(1) 指標の説明

市民が親しんだり活動したりしている文化や芸術には様々なものがありますが、市民の自主的活動や自ら創造的な活動をする市民が増えていくことをめざします。そこで文化・芸術に親しむ市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により創作や実践と鑑賞を区分して直接的に聞いています。「個人・行動」

Q13 あなたは日頃、絵画、音楽、映像、演劇などの芸術文化を鑑賞したり、創作や実践することがありますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| 1 鑑賞し、自分でも創作や実践もしている    | 4 たまに鑑賞している |
| 2 よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない | 5 ほとんど鑑賞しない |
| 3 時々鑑賞している              |             |

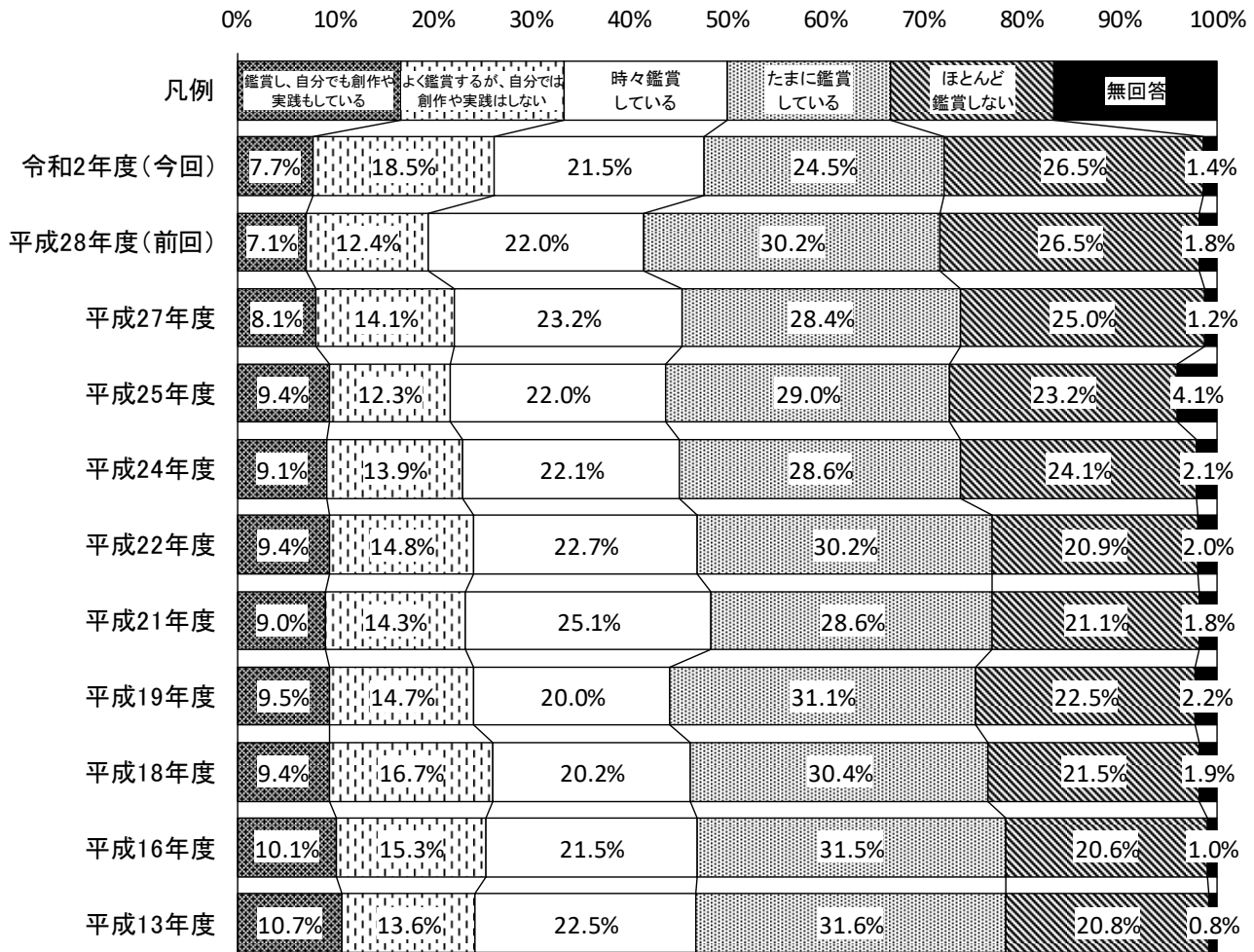
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
鑑賞し、自分でも 創作や実践もして いる	10.7%	10.1%	9.4%	9.5%	9.0%	9.4%	9.1%	9.4%	8.1%	7.1%	7.7%
よく鑑賞するが、 自分では創作や 実践はしない	13.6%	15.3%	16.7%	14.7%	14.3%	14.8%	13.9%	12.3%	14.1%	12.4%	18.5%
時々鑑賞している	22.5%	21.5%	20.2%	20.0%	25.1%	22.7%	22.1%	22.0%	23.2%	22.0%	21.5%
計	46.8%	46.9%	46.2%	44.2%	48.4%	47.0%	45.1%	43.7%	45.4%	41.5%	47.7%

#### (4) 指標の分析

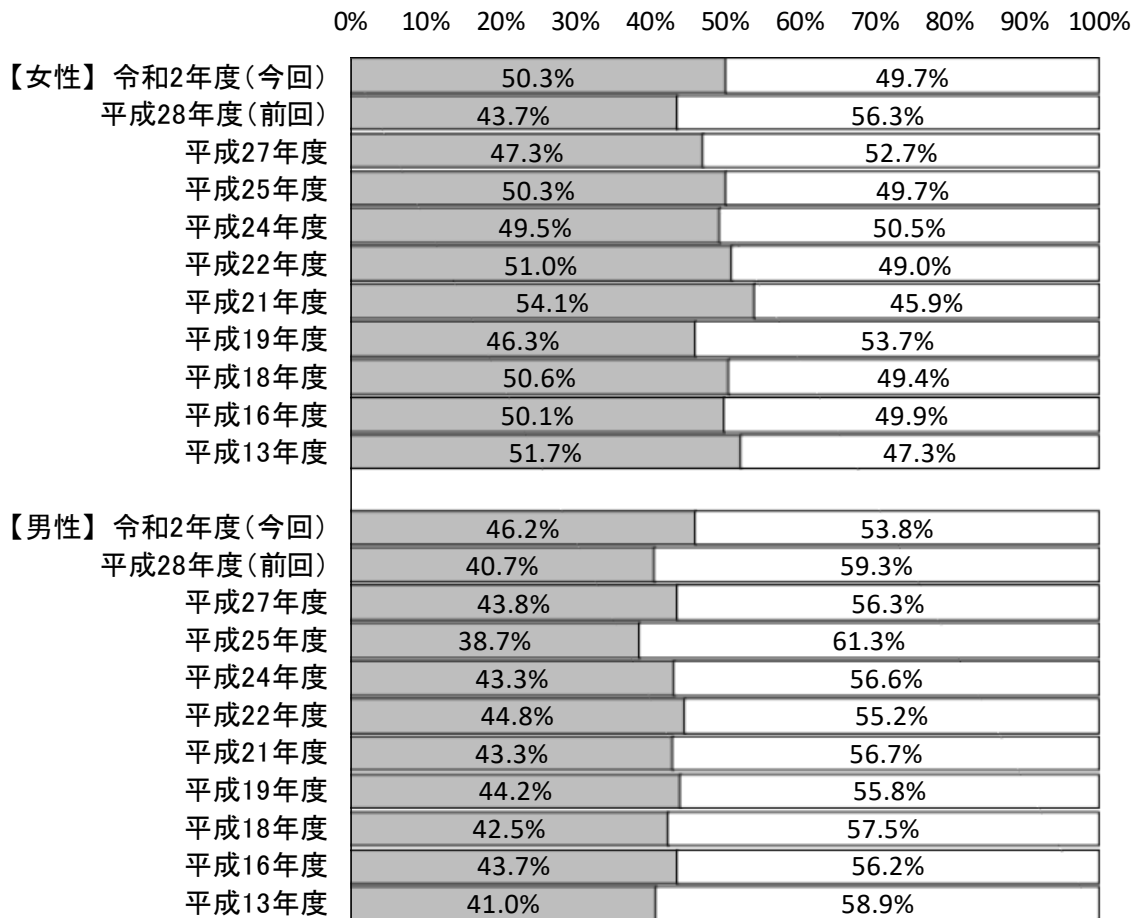
##### ☆文化・芸術に親しんでいる人は約5割となっています

文化・芸術について、「鑑賞し、自分でも創作や実践もしている」、「よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない」、「時々鑑賞している」を合わせた『文化・芸術に親しんでいる』(47.7%)と答えた方は約5割となっており、平成28年度調査と比べて6.2ポイント増加しています。



<文化・芸術活動×性別>

性別で見ると、『文化・芸術に親しんでいる』は“女性”（50.3%）が“男性”（46.2%）より高くなっており、平成28年度調査と比べて、女性では6.6ポイント、男性では5.5ポイント、それぞれ増加しています。



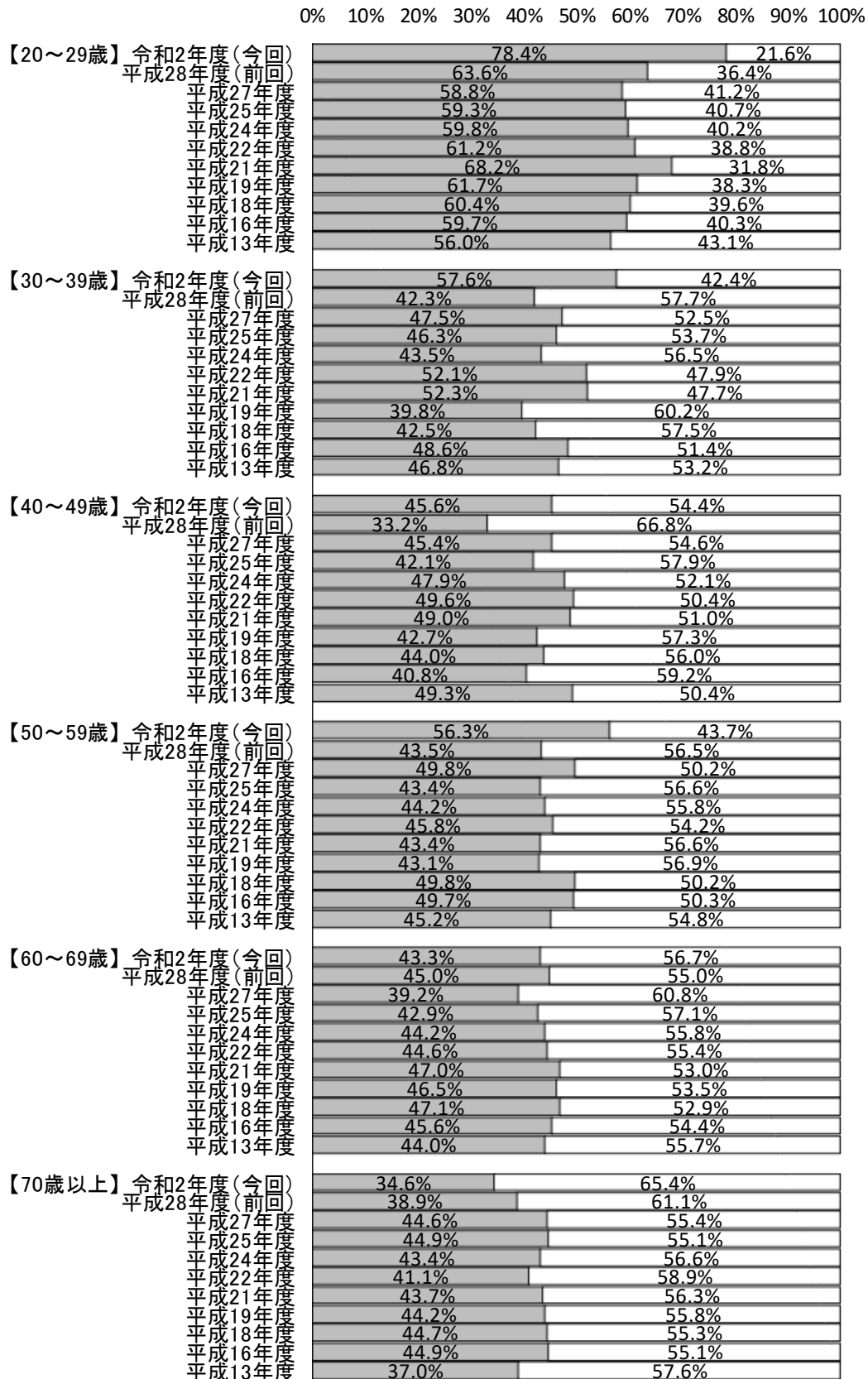
■「鑑賞し、自分でも創作や実践もしている」と「よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない」と「時々鑑賞している」の合計比率

□「たまに鑑賞している」と「ほとんど鑑賞しない」の合計比率



<文化・芸術活動×年齢別>

年齢別でみると、『文化・芸術に親しんでいる』は“20～29 歳”（78.4%）で最も高く、次いで“30～39 歳”（57.6%）、“50～59 歳”（56.3%）となっています。また、59 歳以下の年代で『文化・芸術に親しんでいる』は平成 28 年度調査と比べて 10 ポイント以上増加しています。



- 「鑑賞し、自分でも創作や実践もしている」と「よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない」と「時々鑑賞している」の合計比率
- 「たまたま鑑賞している」と「ほとんど鑑賞しない」の合計比率

《指標》

外国籍市民と交流している人の割合

(1) 指標の説明

外国籍市民と交流する人達がより増えることにより、日常生活の中で様々な不安やトラブルが減少すると考えられます。そこで、外国籍市民と交流している人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q14 あなたは日頃、松戸市に在住したり、滞在したりしている外国の方達と親しく接することがどのくらいありますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 1 大変よくある | 3 ときどきある | 5 ほとんどない |
| 2 しばしばある | 4 あまりない  |          |

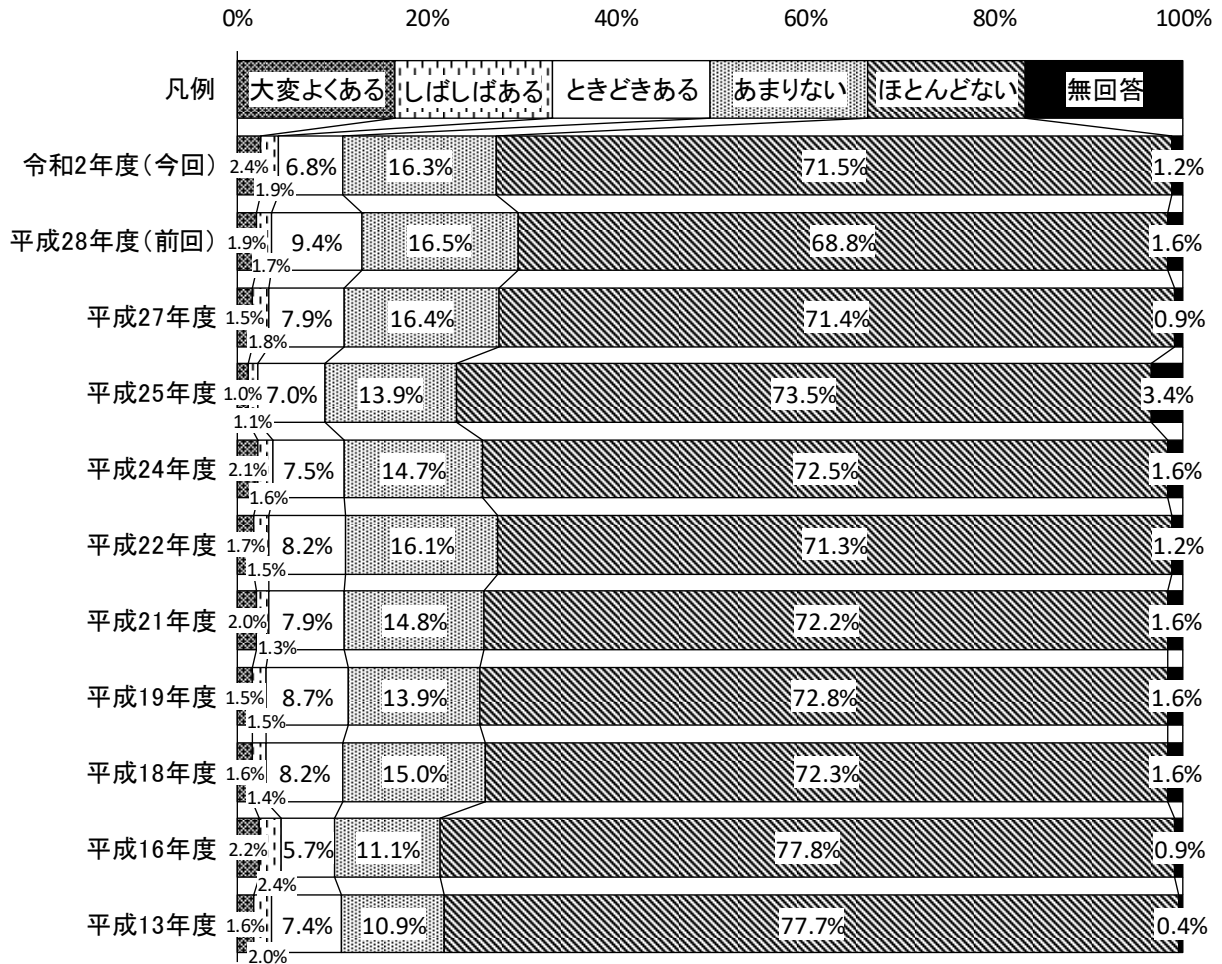
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
大変よくある	1.6%	2.2%	1.6%	1.5%	2.0%	1.7%	2.1%	1.0%	1.5%	1.9%	2.4%
しばしばある	2.0%	2.4%	1.4%	1.5%	1.3%	1.5%	1.6%	1.1%	1.8%	1.7%	1.9%
計	3.6%	4.6%	2.9%	3.0%	3.3%	3.2%	3.7%	2.1%	3.3%	3.6%	4.3%

#### (4) 指標の分析

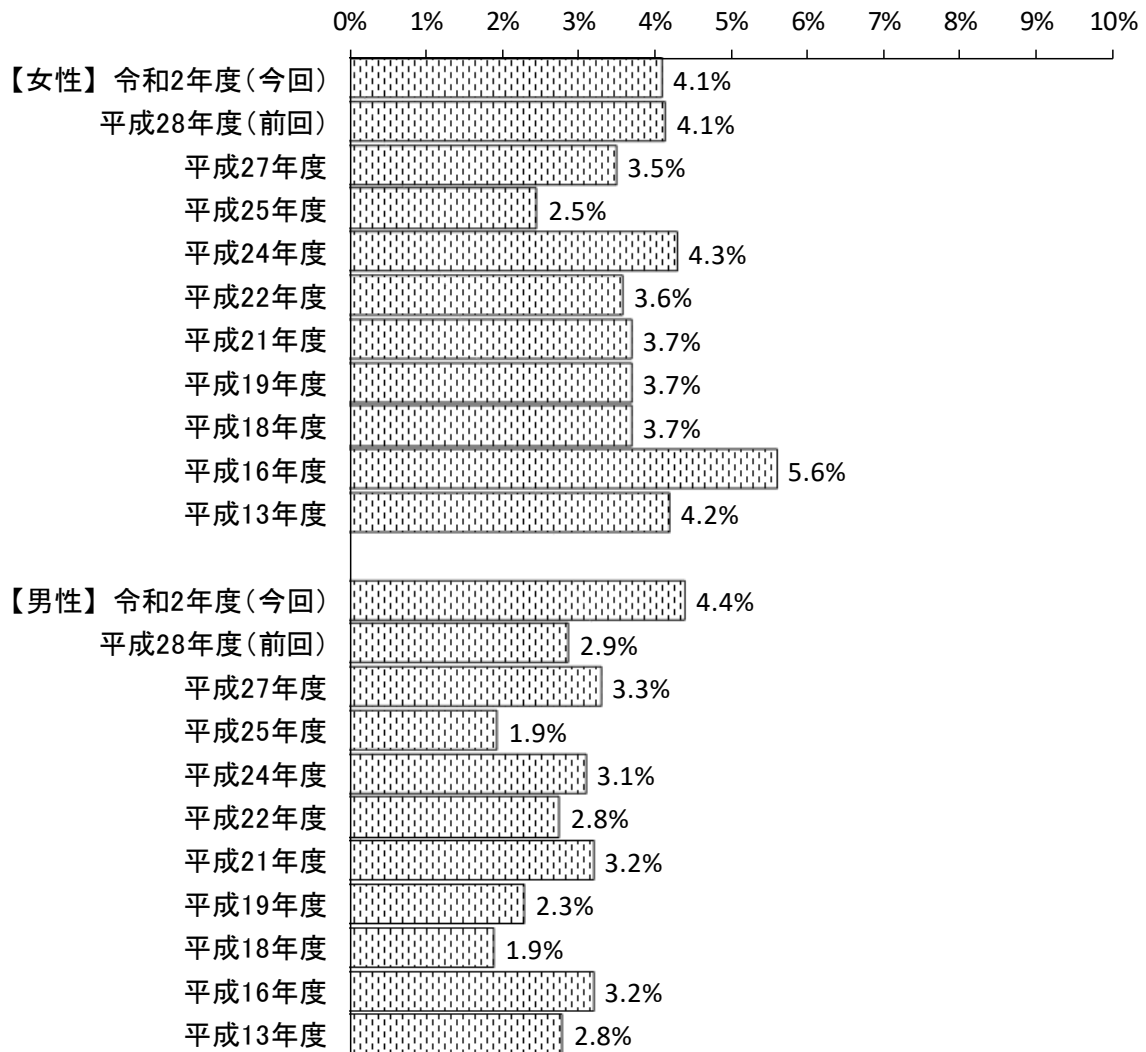
☆外国籍市民と頻繁に交流している人は、平成28年度調査と同様に1割未満となっています

外国籍市民との交流について、「大変よくある」、「しばしばある」を合わせた『頻繁に交流している』(4.3%)と答えた方はわずかとなっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。



### <外国籍市民との交流×性別>

性別でみると、『頻繁に交流している』は“男性”（4.4%）が“女性”（4.1%）より高くなっています。



<外国籍市民との交流×年齢別>

年齢別で見ると、『頻繁に交流している』は“40～49歳”（6.0%）で最も高く、次いで“30～39歳”（4.9%）となっています。また、“40～49歳”を除く全ての年代で『頻繁に交流している』は平成28年度調査と比べて増加しています。

